

## ハワイ大学エクスターンシップ報告書

名前：竹内 ありさ

所属：地域医療振興協会 内科レジデント

研修期間：2017年12月13日～12月29日

2017年12月13日から12月29日までハワイ大学関連病院であるKuakini Medical Center(以下KMC)の家庭医と内科にてエクスターンシップをさせていただきましたので、そのご報告をさせていただきます。私は2018年米国レジデンシーマッチに参加しており、今回の研修開始直前まで面接をしていたため、野口医学研究所の木暮様とご相談させていただきました。このようなイレギュラーなスケジュールに調整していただきました。この場をお借りて再度お礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

### 渡慶次先生のクリニックでの家庭医研修：

私は一番最初の週に渡慶次先生指導の元、家庭医の研修をさせていただきました。まず研修内容ですが、外来診療、入院診療、ER診療など多岐に渡っています。外来診療では渡慶次先生のクリニックにて簡単な問診、身体診察をさせていただきました。入院診療ではKMCの内科入院患者様およびNursing homeの入院患者様を診察そして、治療方針決定にも参加させていただきました。また渡慶次先生の研修は基本24時間Oncall体制なので、渡慶次先生の患者様がKMCのERを受診されたり、入院されたりするとERでも診療することになります。次に1日の流れについてですが、これまでの沢山の研修生が記載されていますが、朝がとても早いです。朝は4:00頃からPre roundといって渡慶次先生と回診をする前に自分達で入院患者様(KMCの内科入院およびNursing homeの入院患者様)の回診を行いProgress noteも記載します。その後6:30に渡慶次先生と合流し、朝の回診を行います。朝の回診では入院患者様を回診するのですが、その前に30分程度コーヒーを飲みながら渡慶次先生が毎日色々な話題についてお話しをしてくださいます。ある時は医学の歴史(Sir. William Osler、顕微鏡の歴史など)について、そしてある時は医師としての心構え(詳しくはレジデントノート2011年9月号に掲載されている「医師となる息子へ」をご参照ください)についてご教授いただきました。その際教えていただいた内容は、今後医師として働いていくにあたり大変重要であったと感じております。朝の回診が終わると、8:00頃から16:00頃まで渡慶次先生のクリニックにて外来診療を行います。その後は午後回診を行い、それが終わるとOncallに備えて自宅待機となります。このように書くと働いてばかりと思われがちですが、渡慶次先生は楽しいことや、人を楽しますことも大好きです。例えば毎週金曜は”Pizza day”といってコストコでピザを3ホール購入し、それを私達研修生とKMCの当直医師にくださったり、またクリスマスやお正月などの特別行事の際は渡慶次先生がKMC以外のNursing homeで見ている患者様も含めて全員の患者様の回診を行います。普段は遠い施設にいらっしゃる患者様は毎日回診に行けないのですがこの日ばかりは顔を見に行くのですが、患者様は一様に先生の顔を見ると旧友に会ったかのような笑顔になり、それを拝見すると渡慶次先生がこれまでされてきたことの大きさに尊敬いたします。

渡慶次先生の元働かせていただき、沢山の学びがありました。それは技術的や知識的な事はもちろんですが、精神的な部分が大きかったと感じております。医師として働いていく上で大切な事を教えていただき、今後も先生を”Role model”として少しでも良い医者になれるように切磋琢磨していく所存であります。

### **KMCでの内科研修：**

私は内科にて2週間研修をさせていただきました。まず研修内容としては、入院患者様の日々の診療、新入院の受け入れ、手技のサポートなどになります。内科は4チームに分かれており、1チームはAttending2人程度とUpper resident(PGY2もしくはPGY3)1人、Intern(PGY1)1人、医学生1人で構成されており、1チームあたりの患者数は約5-10人でした。AttendingはいわゆるHospitalistで、入院患者様の治療方針などはこのAttendingと日々相談して決定していきます。当直は4日に1回チームで回しており、その日は全ての新入院の受け入れを当直であるチームが行います。私達エクスターンはもちろん手技はできませんでしたが、ハワイ大学の内科レジデントはICUに患者様が入院するとCVC、A lineなどの手技も行っていました。教育に関しては毎週火曜日の午後にKMCとは別の病院(Queen's medical center)にて"Academic half-day"というLectureやDidacticsがあったり、毎朝7:00頃からMorning lectureがあったり充実していました。次に1日の流れですが、Pre roundは5:00頃から開始し、チームでのRoundは8:00-10:00頃まで行い、その後はカルテ記載、手技、患者様とのICなどに時間を使っていました。KMCはもともと日本人が創設した病院のため、患者層は日系人が多く、平均年齢も70-80歳とご高齢の方を多く拝見致しました。そのため疾患としては肺炎、尿路感染症、心不全など日本の市中病院でよくみるものを多く拝見しました。今回の内科研修を通して、私は日本語しか話せない患者様を中心に約3人診させていただいたのですが、Round時の英語でのPresentation、英語でのカルテ記載(電子カルテには記載してはいけないので紙に記載してAttendingもしくはUpper residentにチェックしていただく)、ICの仕方などはとても勉強になりました。米国でResidentをするにあたって、到達すべきゴールなどが見えたので大変貴重な経験をさせていただいたと感じております。

### **謝辞：**

最後になりますが、このような機会を与えてくださった野口医学研究所の皆様、研修を受け入れてくださった渡慶次先生およびKMCの皆様、診察させていただいた患者様および患者様のご家族様に心から感謝を申し上げたいと存じます。誠にありがとうございました。